

令和4年12月20日

公益財団法人全国教誨師連盟
理事長 竹岡郁雄 殿

第39回全国教誨師大会大会実行委員長
宮城県教誨師会会長 中村瑞貴

第39回全国教誨師大会（第64回仙台矯正管区教誨師研修併催）実施
結果報告書

標記について、令和4年4月14日付け貴連盟事務連絡「補助事業研修会支出証拠書類及び研修会事務処理方法について」に基づき、下記のとおり報告します。

記

1 実施年月日

令和4年10月19日（水）から20日（木）の間

2 実施場所

宮城県仙台市青葉区本町2丁目3-1
江陽グランドホテル

3 目的

社会の在り方は時代と共に移りゆくが、人の心の在り様、人としての生き方の本質は、いつの時代でもまたどのような境遇であっても変わらない。そのような思いを胸に私達教誨師は各々が使命感を持ち、被収容者と向き合い、各宗派の教えを通して被収容者の人間性の回復が図られるよう日々の教誨活動を行っている。

本大会は、わが国の宗教教誨が、変化する時代の中にあってもさらなる発展を遂げることを切に願い、全国の教誨師が一堂に会し、先人の功績を学び、共に研さんを積むことを目的として開催するものである。

4 参加者238名

教誨師199名 矯正施設関係者13名 その他の関係者26名

5 内容

(1) 第1日目

ア 大会宣言文起草委員会 11:00～12:30

イ 開会式・記念式典 13:00～14:35

ウ 特別講演 16:00～17:00

演題 「ご縁がつながるその先に」

講師 山口刑務所 篤志面接委員 佐藤 忠典 氏

(2) 第二日目

記念講演 8:50～11:00

演題 「矯正施設の出所後を見据えて」

～切れ目のない支援～

講師 全国済生会刑余者等支援推進協議会顧問 (前会長)

保護司 (山口保護区山口支部理事) 篠原 栄二 氏

6 研修の成果

大会主題テーマである「新しい時代と共に」及び副題である「コロナを越えて未来へ導く教誨を目指して」に基づき、広島矯正管区教誨師連盟に所属する教誨師が一堂に会し、宗教教誨に関する研究協議の促進を図り、更に相互の親睦を図ることを目的として研修を実施した。

(1) 基調講演

講師として、広島矯正管区長南部和彦氏を迎え、「矯正の現状」と題し、矯正が現在実施している再犯防止に係る取組状況についての説明、刑法及び少年法等の改正内容についての具体的な説明、さらには、法改正に伴い矯正が大きな転換期を迎え、今後の矯正の取り組みについて取り組みについて、御講演をいただき、矯正の大きな転換期に求められる宗教教誨について考えるものとなった。

(2) 特別講演

講師として、山口刑務所篤志面接委員であり、フリーアナウンサーでもある佐藤忠典氏を迎え、「ご縁がつながるその先に」と題し、佐藤氏が各刑務所で実施しているディスクジョッキーでの、受刑者からの投稿内容を実際に紹介していただくとともに、受刑者の生の声から受刑者一人ひとりへの対応について御講演をいただき、多くの参加者が今後の教誨について検討する研修となった。

(3) 記念講演

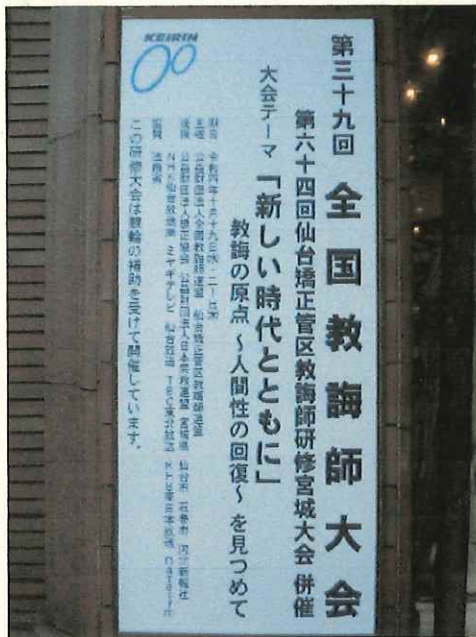
講師として、全国済生会刑余者等支援推進協議会顧問 (前会長) であり、

保護司である篠原栄二氏を迎え、「矯正施設の出所後を見据えて 切れ目のない支援」と題し、受刑中及び出所後の受刑者への取組状況について詳細な説明をいただくとともに、施設内処遇から社会内処遇までの切れ目のない各種指導及び支援についての御講演をいただき、教誨師として、受刑中に何ができるかについて考えさせられる研修となった。

7 写真

別添のとおり。

研修会実施記録



研修会場表示



会場風景



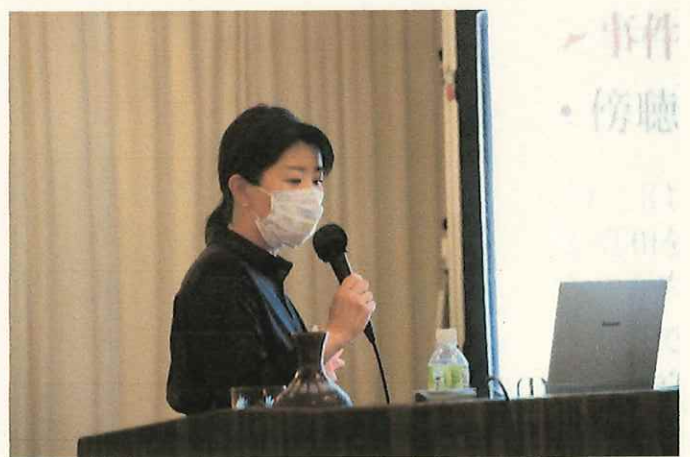
式典



基調講演



分科会 1



分科会 2



分科会 3



記念講演



全体協議会

教誨師大会に 全国から300人

4年ぶり 仙台

刑務所などで被収容者に
向き合ってきた教誨師が一
堂に会する「全国教誨師大
会」が19日、2日間の日程
で仙台市内で始まった。隔
年開催だったが前回はコロ

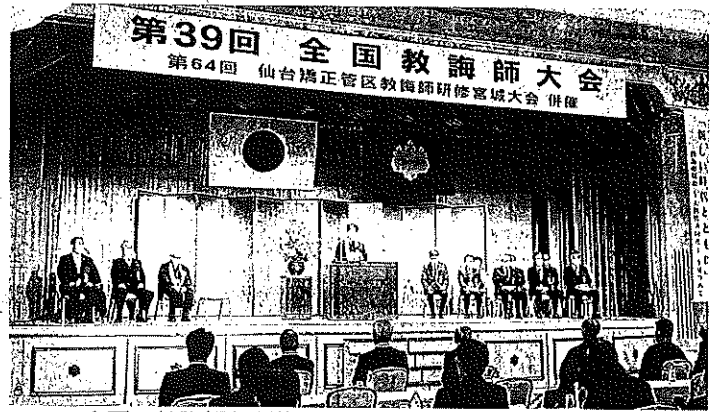
ナ禍で中止され、4年ぶり
の大会。全国に約1820
人いる教誨師のうち、約3
00人が参加した。

教誨は仏教、神道、キリ
スト教といった宗教者が、
説教などを通じて受刑者ら
の人間性回復が図られるよ
う、ボランティアで取り組
んでいる。19日には、加害
者家族、被害者遺族をそれぞ

れの支援にあたっている人
の講演を聴き、研鑽を深め
た。

大会実行委の一員で石巻
栄光教会(石巻市)の川上
直哉牧師は、「刑を終えた
人が世の中に出たときの差
別は、厳しい。その人の尊
厳を、皆が支える社会であ
ってほしい」などと話し
た。
(石橋英昭)

更生支える決意新たに 仙台で全国教誨師大会



全国の教誨師らが集った全国大会=19日、仙台市青葉区の江陽グランドホテル

刑務所などで受刑者らと向き合う全国の教誨師が集い、研さんを深める全国教誨師大会が19、20の両日、仙台市青葉区の江陽グランドホテルで開かれた。約300人が参加し、矯正や収容者を取り巻く現状について

理解を深めた。19日に行われた式典で、全国教誨師連盟の大谷光淳総裁が「改正少年法施行など取り巻く状況は変化しているが活動の原点は変わらない。収容者の人間性の回復、更生に向けた責務を果

たしていく」とあいさつ。引き続き加害者の家族支援や、被害者遺族らのケアをテーマにした分科会などが行われた。

教誨師は仏教、神道、キリスト教などの宗教家有志らが務め、収容者の希望に応じた精神的安定、社会復帰のための面会などを行っている。大会実行委員会などによると全国で約1820人おり、うち東北では計約130人が活動中。収容中に亡くなる受刑者らを供養する場合もあるという。

実行委広報部長で、宮城刑務所(若林区)の教誨師を約10年務める石巻栄光教会(石巻市)の川上直哉牧師は「教誨師の役割や更生支援の重要性について、多くの人に知ってもらえればありがたい」と話した。